AWS Glue Studio ワークショップ

2021/03/29 シニアエバンジェリスト 亀田 治伸

1. 以下の URL ヘアクセスし CloudFormation を起動します。

短縮

https://amzn.to/36n5q1F

フル

https://console.aws.amazon.com/cloudformation/home?region=us-east-

1#/stacks/create/review?stackName=Glue-Studio-Blog&templateURL=https://aws-bigdata-blog.s3.amazonaws.com/artifacts/gluestudio/cftemplate/CFgluestudio.yaml

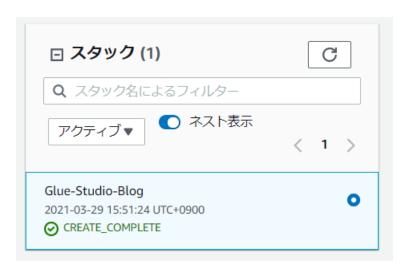
2. 以下にチェックを付けて、「スタックの作成」を押します。



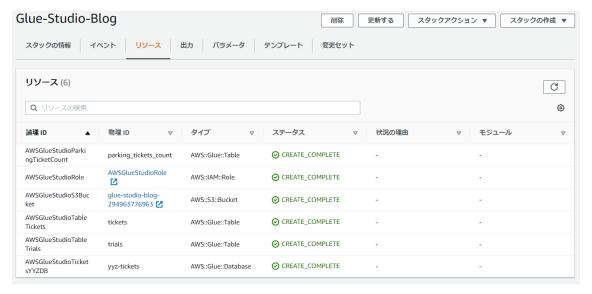
3. 構築作業中となりますのでしばらく待ちます。(たまに更新ボタンを押して画面をリフレッシュしてください)



4. 以下が表示されれば、作成完了です。



5. リソースタブを見ると、Glue のデータベースが 1 つ、テーブルが 3 つ、S3 バケット、IAM ロールが作成されたことがわかります。



- 6. AWS Glue のマネージメントコンソールにいきます。(管理者画面上の検索窓に glue と入力してください)
- 7. 左のペインから「Glue Studio」を選んでください



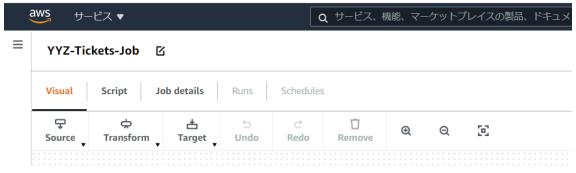
8. 「Create and Manage jobs」を選びます



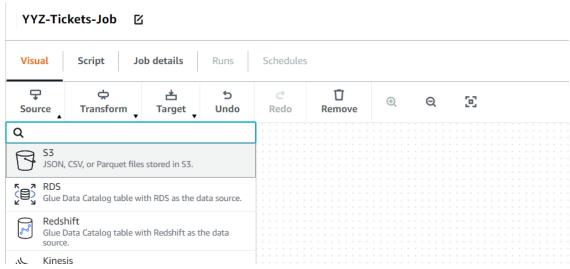
9. 「Blank Graph」を選び、「Create」をおします



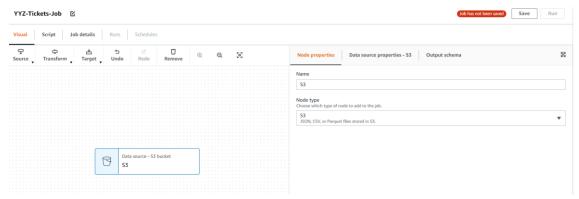
10. 左上 Job 名を「YYZ-Tickets-Job」に変更します。(名前は任意でなんでも OK です)



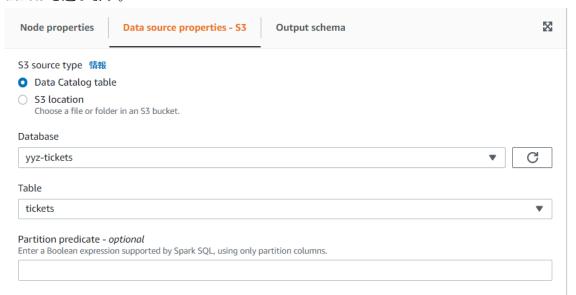
11. 「Visual」→「Source」→「S3」を選びます



12. グラフ領域の S3 を選んで、画面右の「Note Properties」タブを選び、「Name」に Tickets と入力します

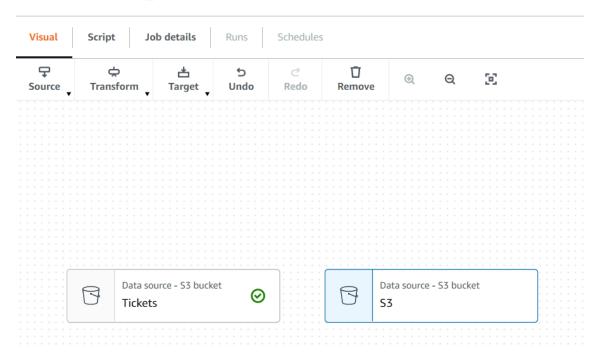


13. 「Data source properties S3」タブを開き、「Database」に yyz-tickets、「Table」に tickets を選びます。

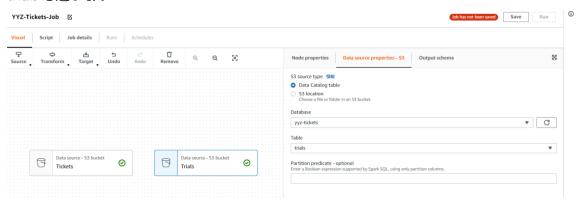


14. 2個目の「Source」→「S3」を追加します。

YYZ-Tickets-Job ☑

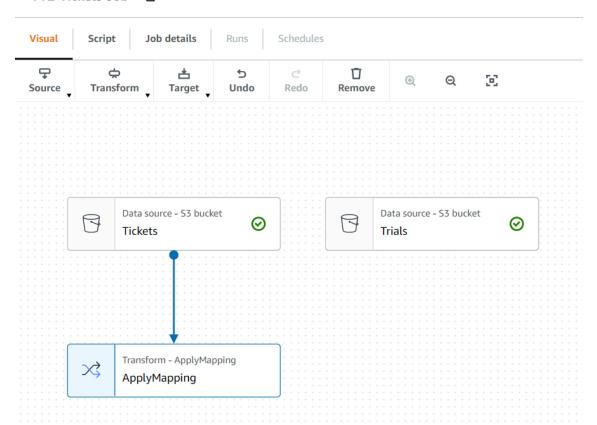


15. 「Name」に Trials と設定し、「Database」には先ほどと同じ yyz-tickets、「Table」に trials を選びます



16. グラフの Tickets を選び (薄い水色になります)、「Transform」から ApplyMapping を選びます。

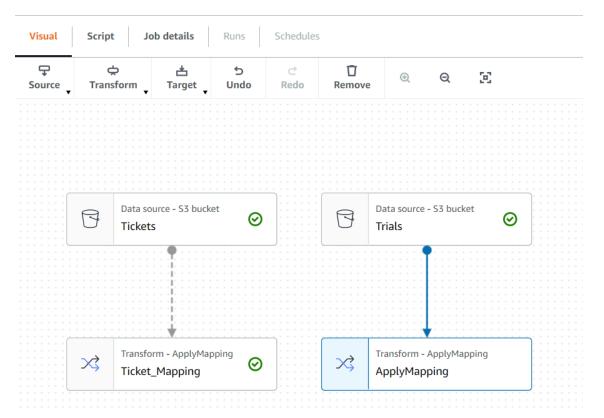
YYZ-Tickets-Job ☑



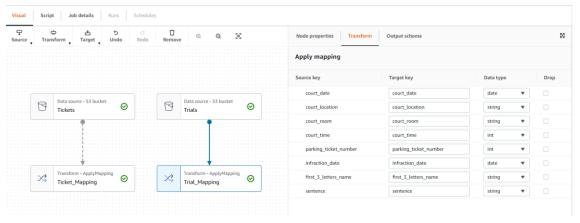
17. 「Name」を Ticket_Mapping とし、「Transform」タブで ticket_number を decimal から int に変更します。さらに、Location1、Location2、Location3、Location4、 Province のカラムを drop します

Apply mapping			
Source key	Target key	Data type	Drop
ticket_date	ticket_date	string v	
ticket_number	ticket_number	int ▼	
officer	officer	decimal ▼	
infraction_code	infraction_code	decimal ▼	
infraction_description	infraction_description	string v	
set_fine_amount	set_fine_amount	decimal ▼	
time_of_infraction	time_of_infraction	decimal ▼	
location1			✓
location2			✓
location3			✓
location4			✓
province			✓

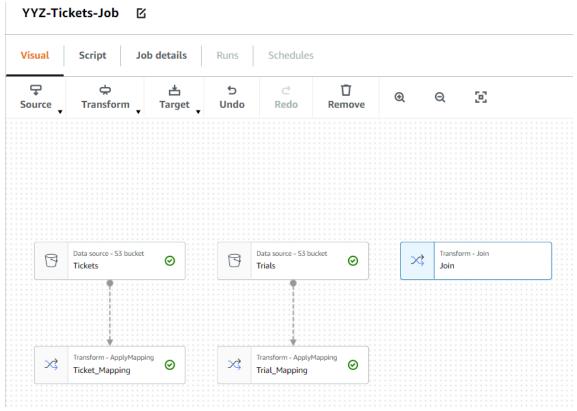
18. 同様に、Trials の S3 の下にも、ApplyMapping をぶら下げます。



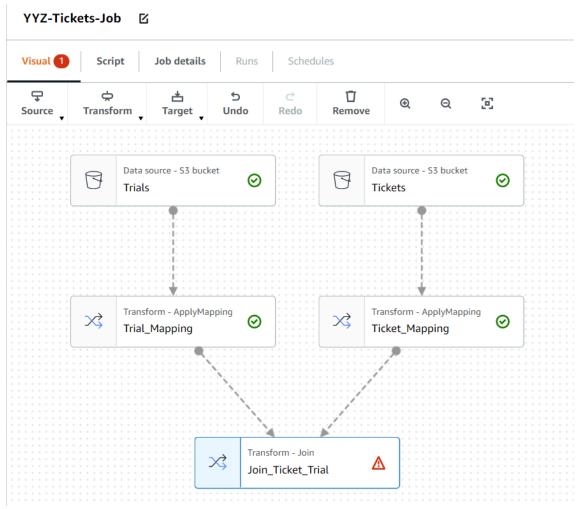
19. 「Name」を Trial_Mapping とし、parking_ticket_number の型を long から int に 変更します



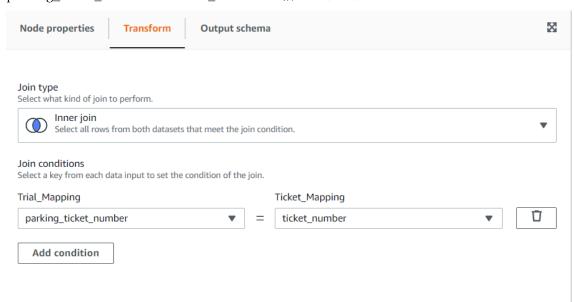
20. 以上でテーブル連結に必要な型の統一や、不要カラムの削除設定が完了しました。 「Transform」 → 「Join」を選択します



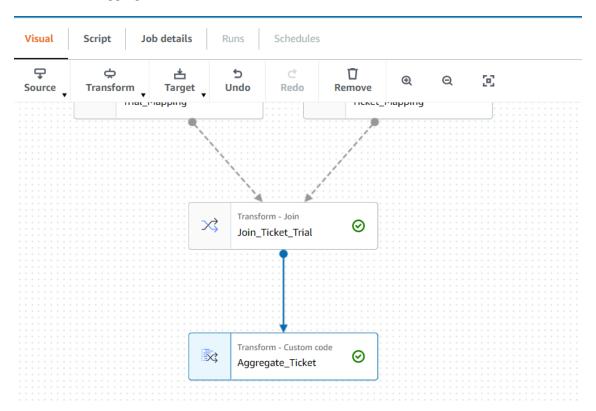
21. 「Name」を Join_Ticket_Trial と設定し、「Note parents」に先ほど作成した 2 つの Transform を選びます。



22. 「Transform」タブの「Join Conditions」で「Add condition」ボタンをおし、parking_ticket_number と ticket_number を結びつけます



23. Transform –Join を選択した状態で、「Transform」→「Custom Transform」を選び、「Name」を Aggregate_Ticket とします。



24. 「Transform」タブの「MyTransform」部分を Aggregate_Tickets に置換します。そして 2 行目以降に以下をペーストします。

selected = dfc.select(list(dfc.keys())[0]).toDF()

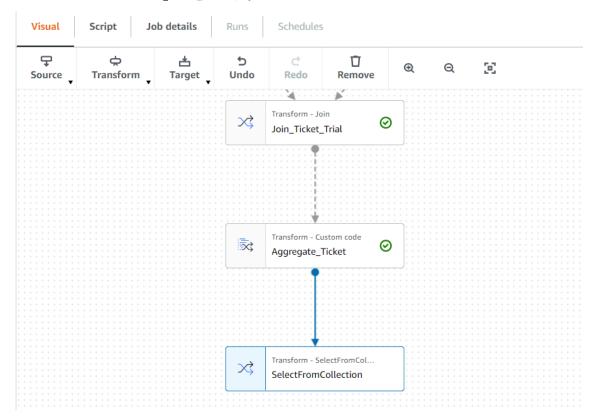
selected.createOrReplaceTempView("ticketcount")

totals = spark.sql("select court_location as location, infraction_description as infraction, count(infraction_code) as total FROM ticketcount group by infraction_description, infraction_code, court_location order by court_location asc")

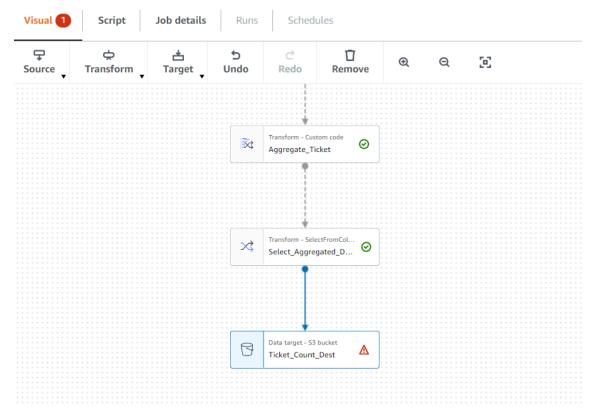
results = DynamicFrame.fromDF(totals, glueContext, "results")

return DynamicFrameCollection({"results": results}, glueContext)

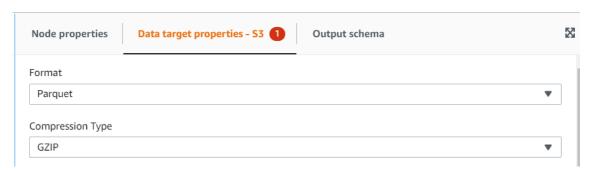
25. グラフ領域で「Aggregate_Ticket」を選んで「Transform」→ 「SelectFormCollection」を選びます。



- 26. 「Name」を Select_Aggregated_Data とします。
- 27. 「Target」→「S3」を選び、「Name」を Ticket_Count_Dest とします。

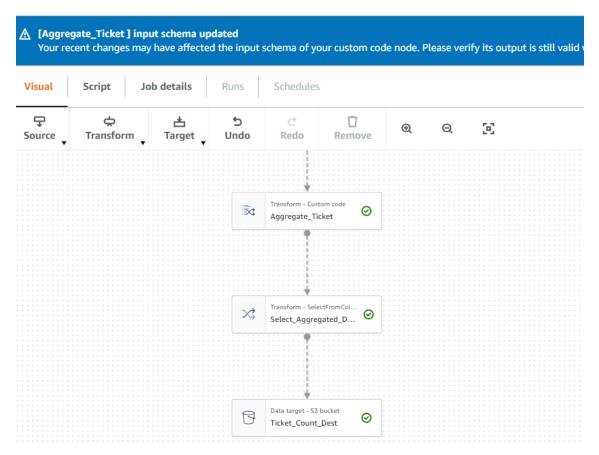


28. 「Data target properties –S3」タブで、「Format」を Parquet にし、Compression Type を GZIP にします。

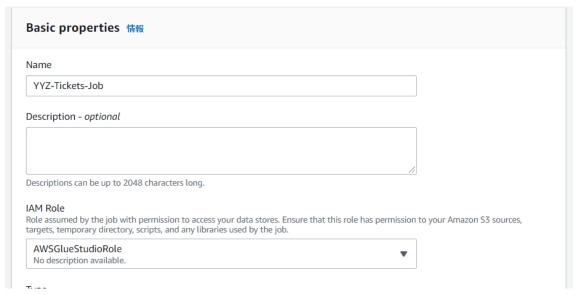


- 29. 今日作成された S3 バケットを選び、後ろに「parking_tickets_count/」を付け加えます。(文字列は / で終わることに注意してください)
- 30. グラフ領域の上にあるタブで「Job details」を選びます。

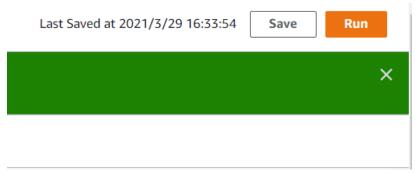
YYZ-Tickets-Job ☑



31. 今日作成された IAMRole を選びます

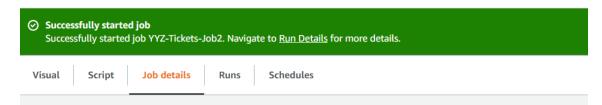


- 32. 「Job bookmark」を Disable に設定し、画面右上(ブラウザのスクロールバーで上に 戻ります)で「Save」ボタンをおします。
- 33. 「Save」が終わったら「Run」ボタンをおします



34. 以下の通り Job が開始されます。

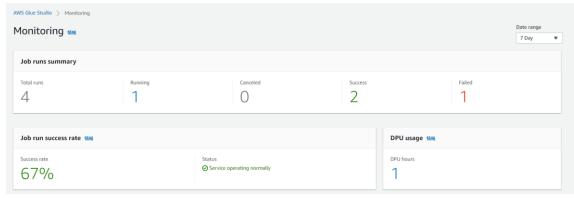
YYZ-Tickets-Job2



35. ブラウザの別タブで再度 Glue Studio を開き、「Monitor job runs」を押して下さい



36. 以下のように Job の実行状況が可視化されます。何度かブラウザをリロードしながら job が完了するまで待ってください



37. Job が完了したら今日さ宇製された S3 バケットへ移動し、フォルダができていることを確認します。



38. それでもいいのでフォルダの中に作成されている gzip 圧縮された parquet 形式のオブ ジェクトをクリックします



39. オブジェクトアクションで「S3 Select を使用したクエリ」を選んで実行してください。入力形式は Apache Parquet、出力形式は任意です。



40. 以下のようにデータ変換や Join が完了し正しくデータが生成されていることがわかります。



おつかれさまでした。以下を削除してさい。

- Job (Glue Studio ではなく、Glue の画面からジョブを削除)
- CloudFormation スタック